

## 三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部 第10期（2022・2023年度）の振り返り

### 【 第10期後半年度（2023年度（10月～翌年9月））のトピックス 】

#### 事業会社の動向

- ・ 2024年度までの戦略である「顧客企業の目指す姿の実現を支援し、自社プラットフォームで得られたノウハウで新たな収益化」を掲げ取り組みを推進した。
- ・ 2024年2月には「事業会社化」をめざした新規外部事業案件（MDX）のリリースに至った。
- ・ 2023年度のIMS業績は売上高134.9億円、営業利益7.0億円となった。

#### 支部の動向

- ・ 2023年度3月期における三越と伊勢丹の統合後における過去最高益などを背景に、2024年6月度賞与は加算支給となった。
- ・ 少子高齢化やIT人材・デジタル人材の希少化を背景に働き方の多様化が進んでおり、対応するための協議を推進している。

### 【 第10期運動方針の考え方 】 ※第10期運動方針再掲

- ・ 【テーマ】「働きやすさの向上」と「一体感のある職場」の実現
- ・ 「働きやすさの向上」のため、「多様な働き方の更なる推進」「会社の方向性と一人一人の目指すべき方向性がマッチする制度と運用の実現」「総実労働時間の短縮」にむけ引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・ リモート中心のコミュニケーションのなかにあっても、お互いの言葉をその背景も含めて理解し合うことができ、そのうえで自分を発揮して意見交換を行うことができる、「一体感のある職場」である必要がある。

### 【 活動の振り返り 】

#### 全体の振り返り

- ・ 第10期にテーマとして掲げた「働きやすさの向上」と「一体感のある職場」の実現については、支部の特色である兼任役員の主体的な実行力を活かし、特定分野においては大きな成果を挙げる事ができた。その一方で、支部内の状況認識が揃わず力を活かせない場面も多く、成果につながった分野とそうでない部分の濃淡が極端だった。
- ・ その背景として、議案を作る際に三役で先行して方向性をつくることに時間をかけすぎ、評議員に諮る時点はもとより執行部内でも、十分な議論ができる状況を作り出すことができなかった。VOICEサイクルにおける「話し合う」が十分できなかった結果となり、コミュニケーションの取り方に改善の余地を残した。

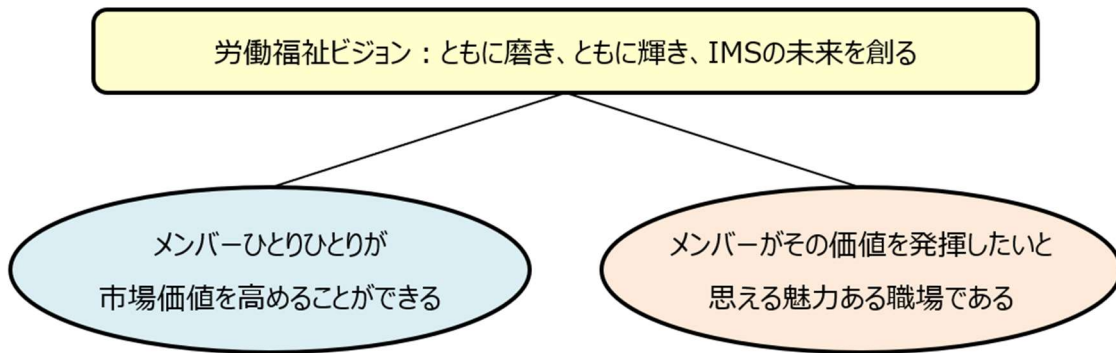
◎：できたこと	△：やりきれなかったこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「働きやすさの向上」に関する活動として、年間休日数124日を実現し、「一体感のある職場の実現」では、「本気のかくれんぼ」レクリエーションを実施した。</li> <li>・ テーマ実現の土台の活動として、全国採用VOICEの実施、声を経営に伝えた上でのメンバーへのフィードバック、teamsを活用した定期的な広報活動をおこなった。</li> <li>・ 継続的なケアと2024年6月賞与の加算支給を実現した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ別VOICEが計画通り実行できず支部内の声の吸い上げをやり切れず、結果として労使協議の進捗に影響が一部議題で発生した。</li> <li>・ 広報活動については、teams以外のチャネルの活用、各種活動の推進につながる内容の実施に至らず、メンバーが自ら声を上げられる状況を作りだす形への推進及び会社経営に対する効果的な提言が継続的におこなえなかった。</li> </ul>

### 【 第10期後半年度（2023年度）支部活動費の執行について 】

予 算	実 績	執行率
870,000 円	406,861 円	46.77 %
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レクリエーションについては計画通りの執行となった。一方で、雇用形態別やダイバーシティをテーマとしたVOICE、職場風土改革にむけた支部役員のリモートワークに関するセミナーへの参加、チャレンジプランについては未実施となった。</li> </ul>		

## 三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部 第11期（2024・2025年度）運動方針（案）

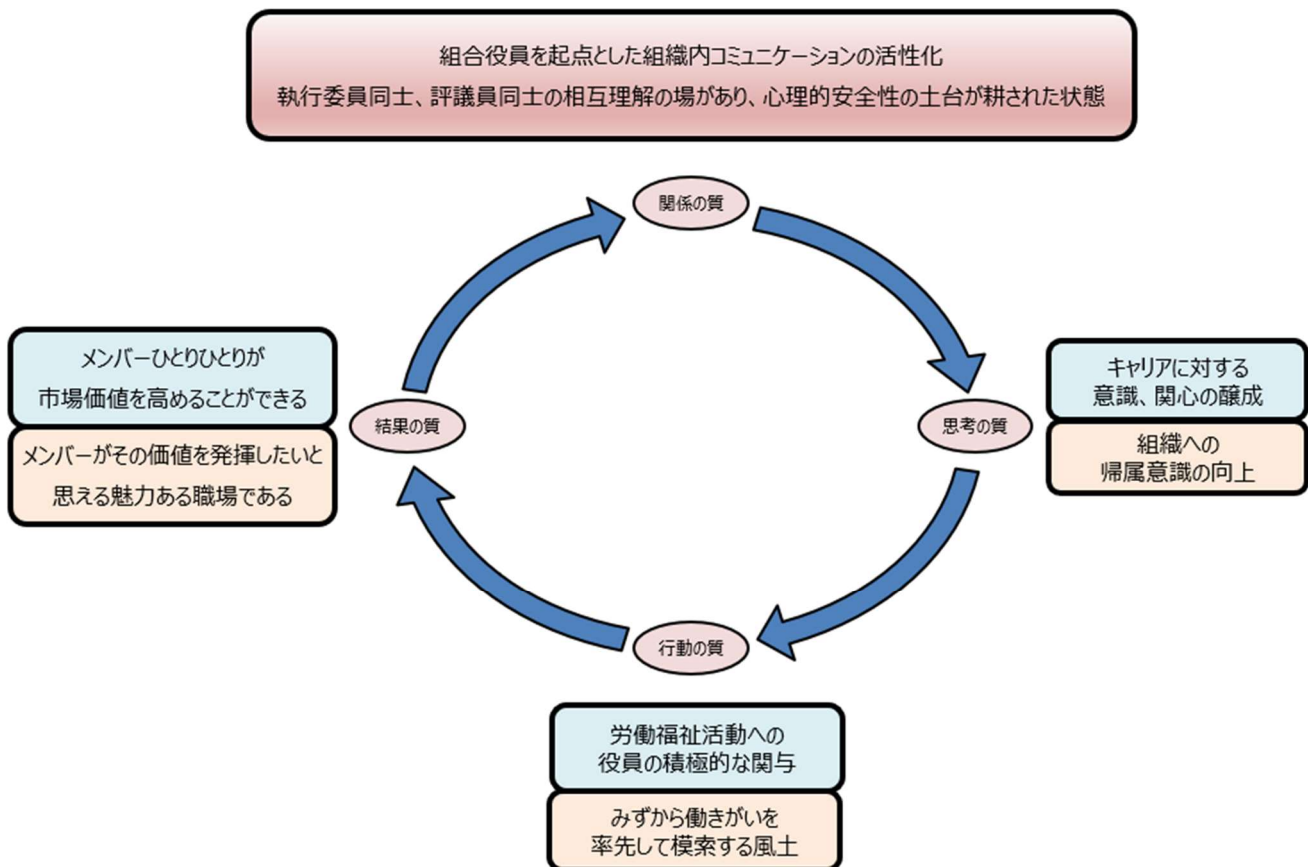
<11期末にめざす姿>



労働福祉ビジョンのスローガンには、自らの成長を後押しして市場価値の高い人材となることができること、かつ、その強みを生かして働きたい、と思える職場環境でありたいという想いが込められています。

この状態を実現するため「成功循環モデル」を活用して、11期ではまず「関係の質」の向上に取り組み、組合活動の充実をはかります。

<IMS支部 成功循環モデル> ※ダニエル・キムによる成功循環モデルをもとに制作



組合役員同士の関係の質をあげることで、自発的な活動を促すとともに、VOICE サイクルにおける「話し合う」をより充実させ、活動全般を円滑にまわすための足掛かりとします。また最終的に「会社からもメンバーからも必要とされる組合活動の実現」をはかっていきます。

## 三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部 第11期（2024・2025年度）運動方針（案）

### 【取り巻く環境】

- ・ 社会経済情勢として、物価上昇やインフレ局面の進行、少子高齢化の進行、災害リスクへの備えのニーズの高まりがある。
- ・ 国内各企業は、従来システムのスリム化と先進的取り組みに並行で取り組む必要があり、それらに寄与できる人財が求められる。背景には情報サービス産業界の人財の枯渇感もあり、人財獲得競争の激化と社内でのリスクリングの必要性の高まりがみられる。
- ・ 三越伊勢丹グループはビジョンの実現に向け、ビジネスモデルを“館”業から“個客”業に変革していく。
- ・ IMSは、グループが個客業としての価値提供を柔軟かつ効率的に実現できる仕組み（個客業ITプラットフォーム）の構築推進、IT事業構造改革の推進、IMS独自のグループ外部向けITサービスの開発体制・営業力の強化に取り組む。IMSにおいても情報サービス産業界内の他社と同様に、戦略遂行に必要な人材の採用と育成が求められる。また、グループ内の人財をリスクリングによってIT人材化することも期待されている。

### 【重点取り組み（具体的な活動）】

#### 組合役員を起点とした組織内コミュニケーション活性化

- ・ 11期末の目指す姿を実現するため、メンバーが自発的に活動に参画する風土を根付かせることを目標とする。
- ・ 前半年度は、労働福祉活動・経営対策活動を中心とした活動の質を高めるため、執行部としての提案力と提言力を向上させ評議員に素早く情報を発信する。その素地として、「ななめ1on1」等の支部役員を中心としたコミュニケーションの活性化やグループ内他支部との交流をおこなう。これらの取り組みを通して11期の活動の基盤となる執行部・評議員・職場委員のエンゲージメントが高まり、後半年度の活動の礎となる。
- ・ 成し遂げることをチームとしてより強く意識できる状態とするため、支部役員同士で立候補にあたっての決意・思いを定期的に共有する取り組みをおこなう。

#### 労働福祉活動

- ・ 制度運用における課題の抽出と優先度の整理のための議論をおこなう。  
（例）様々な雇用形態・働き方に応じたテーマ別VOICEの実施や各種データの分析による各種制度運用の実態検証と、次期中期経営戦略とのギャップなどを中心とした課題の洗い出しをおこなう。
- ・ メンバーニーズと経営戦略に適合した制度検討を推進する。  
（例）次期人事賃金制度の検討推進、60歳以降の働き方整備、勤務地を問わない働き方の取り組み推進

#### 経営対策活動

- ・ 次期中期経営計画について支部内での理解度確認や疑問点などの吸い上げ、その結果を踏まえた経営との意見交換、その内容の広報を通して、方針浸透を加速させる。
- ・ 「みずから働きがい率先して模索する風土」についての支部での活発な議論と、それを踏まえた労使コミュニケーションをおこなう。

#### 広報活動

- ・ 組合役員の関係の質の向上を、支部全体に波及させるため、メンバーとのコミュニケーションチャネルの多角化をおこなう。デジタルツールだけに頼らず、リアルでの対話もおこなう。

### 【第11期前半年度（2024年度）支部活動費予算について】

予 算	前期実績	前期比
815,000円	406,861円	200.3%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーション活発化を目的とした活動（組織開発に関する支部としてのスキルアップのためのセミナー受講、機関会議のリアル開催）、情報サービス産業界の動向・処遇に関する書籍購入、雇用形態別VOICE・テーマ別VOICEの開催、職場懇親会補助、コロナ禍入社者むけのチャレンジプランの実施、他労組や先進的な働き方を取り入れている業界他社との交流</li> </ul>		